

武蔵野公会堂の改善方針の検討

1 武蔵野公会堂の役割

- ・公会堂は武蔵野市で最初期に建設された集会施設であり、現在は文化施設として位置付けられている。
- ・ホール機能を持つ文化施設のうち、全市的施設として市民文化会館、駅勢圏別施設として、公会堂、芸能劇場、スイングホールが位置付けられる（吉祥寺シアターは舞台芸術専用の全市的施設）。
- ・今後の20年程度を踏まえた公会堂の役割として、より幅広い利用や、次世代の文化施設に求められる機能を探るための実験的な利用も見据えることが重要となる。

2 ホール棟の改善について

(1) ホール棟の改善の視点

- ・ホール棟は構造的に必要な耐震性能は満たしており、20年程度の継続的な使用が可能である。
- ・ホール客席内装などは独自性のある魅力的な空間である。
- ・最新の設備や技術の導入等によって、より幅広い用途や実験的利用に対応可能な改善（アップグレード）が可能であるか（また、どのレベルまでの改善が必要か）。

(2) ホール棟の具体的な改善項目

- ・遮音性能の向上のため、窓の二重化、天井の遮音材の設置等の対策が考えられる。
- ・舞台上の反射板収納の改善により、照明等の演出の幅の拡大が可能となる。
- ・移動観覧席の導入による、平土間化の検討など、多様な用途に対応できる仕様を検討する。
- ・新たな楽屋スペースの確保のため、会議室棟の地下の機械室の機器を屋上に上げることについては、今後さらに詳細な検討が必要である。
- ・舞台袖スペースの確保のため、舞台裏の現状の楽屋スペースを活用し、新たな楽屋を別に設けることを検討する。同時に、動線を観客と区別する方策の検討が必要となる。
- ・駐車場との舞台裏搬出入口との間の段差解消のため、エレベーターの設置を検討する。

3 会議室棟の改善について

(1) 会議室棟の改善の視点

- ・会議室棟は、構造上の基準や防火避難規定との関係で、現在の法規に合わせた遡及改修が必要となり、大きなコストがかかると想定される。
- ・既存会議室棟を既存不適格のまま残置し、増築に当たらない遡及改修不要な形でエレベーターを設け、運用するという可能性もある。その場合も、市の内規による耐震性能向上のための補強工事や防火避難上の安全性を担保するため、慎重な検討が必要となる。

【資料1】

- ・まちとのつながりを高めるために必要な圧迫感の少ない施設規模や配置・デザインの検討が必要となる。
- ・周辺の公共・民間の会議室・スタジオの状況を踏まえ、公会堂に求められる会議室・スタジオの数・広さを検討する。

(2) 会議室棟の具体的な改善項目

- ・エレベーターの設置によるバリアフリー化は、増築または既存会議室棟内への設置が考えられる。
- ・現在階段の踊り場に設置されているトイレについては、増築または既存の会議室スペースの活用が考えられる。
- ・遮音性能のある練習室については、会議室や楽屋との兼用とすることを検討し、基本的に地下部分に設けることが考えられる（ホール棟南側に新設または既存会議室棟の地下の活用）。